新聞に興味や関心を持って接し、新聞の良さを感じながら子どもを育てるにはどうしたらよいか。

長野県埴科郡坂城町村上小学校教諭（代表） 仲 弘 久

1. 実践の概要

テレビ、ラジオ、雑誌、新聞、インターネット(パソコン)と子どもたちの身のまわりには、情報を得る手段が多くある時代である。しかし、このような情報化社会の中で子どもたちは、必要な情報をきちんとキャッチして、自分たちのために生かしているのだろうか。

子どもたちの情報の多くは、テレビから入っているのが実情のようである。子どもたちの会話の中にテレビからの話題が多く出てくる。テレビの良さは、日常生活の中で十分感じている子どもたちである。では、毎日目にふれる新聞についてはどうであろうか。5年生33名にアンケート調査を行なった。これは、NIEに取り組む前に行なったものであるが、次のような結果であった。

〈新聞についてのアンケート 1999年9月 5年生 33名〉

○新聞を読みますか？

毎日読む…19名 週に3日ぐらい読む…10名

週に1・2日読む…4名 ぜんぜん読まない…0名

○どんなところを読みますか？

テレビ欄…30名 4コマ漫画…22名 見出し…11名 スポーツ欄…10名

事件・事故の記事…3名 天気予報…2名 クロスワード…2名

目についたところ…2名 1面記事…2名 カラー写真…1名

おくやみ欄…1名

家に毎日届く新聞に全然無関心という子はいないようであり、目を通してしている子どもたちである。しかし、テレビ欄、4コマ漫画が新聞との関わりの中心であり、読むというより目を通してしているというのが実態である。新聞は、テレビ番組を選ぶための情報として子どもたちの生活の中にあり、楽しみのひとつとして4コマ漫画がある。アンケートから予想外だったのが、見出しを11名の子どもが見ているという点である。子どもは、見出しをみて社会のニュースを気にしているようであり、記事までは読もうとしないものの見出しには興味や関心がいくようである。

NIEを実践していくとき、情報源としての新聞の良さを感じることを大事し、新聞に親しむ子どもたちの姿を願って次のことを考えた。

●新聞への興味・関心を高める。

・授業への活用 ・朝の会での活用

●新聞の良さ—毎日みんなの手元にある・記録、資料として見返せるなど—を取り上げた実践に取り組む。

具体的には、5年生の理科『天気の変わり方』で新聞の気象写真を活用した授業に取り組んだ。また、5年生の国語の説明文の段落分け、文の構成の学習では、新聞の見出しを

利用した学習に取り組んだ。4年生は、朝の会で『ニュースの時間です』という活動を継続して行なっているが、ニュースの題材として、新聞が多く活用されるようになった経過が報告された。詳しくは、実践の内容の項に記述するが、徐々に新聞が生活の中に入ってきて、親しみを感じてきている子どもたちが増えてきている。「新聞＝テレビ番組欄」という意識が少しずつ変わってきて、「新聞＝テレビ番組欄＋必要な情報、ニュース」と感じている子どもたちが多くなってきた。

2. 新聞の置き場所と整理の方法

〈置き場所〉 3年生以上の児童が必ず通る2階中央廊下に6社の新聞を毎日展示できるスペースを設置 『NIEコーナー』と称している。

〈整理の方法〉 係の教師が新しい新聞（1日前の新聞）が上にくるように数日間分をまとめる。まとめたものは、自由に子どもたちが読めるように、NIEコーナーに置く。

1ヶ月単位で各社に分けて保存する。学習で必要があれば資料として使えるように整理した。

3. 実践の内容

(1) 教科学習での取り組み

実践1；5年生理科『天気の変化』—新聞の天気欄「気象写真の活用」から—

① 学習のきっかけ

9月、台風の季節である。この時期は天気が変わりやすく、変化の様子を学習するのに適している。理科の天気の学習はだいたいこの時期に行われる。子どもたちが日々の天気に興味を持って学習していくにはどうしたらいいか、考えていた。理科の教科書には、この時期の一般的な気象写真が載っているが、子どもたちが天気の変化を実感しながら気象写真を見るには、自分たちの経験が伴わないといけない。そう考えた教師は、新聞に毎日記載される『天気欄』の気象写真のスクラップを子どもたちに提案した。子どもたちのほとんどが、天気予報はテレビに頼っているのが現状であったが、新聞の天気欄は記録として（資料として）残る利点があることを感じてほしいと願い、それが新聞への親しみに通じるのではないかと考えた。

天気の学習で新聞の天気欄を利用する取り組みがこうして始まった。

② 学習の流れ（教師の支援・指導の含めて）

9月上旬から10月上旬まで、毎日、朝刊に載る『天気欄』を切りぬいて画用紙にはっていった。家族が新聞を読む関係で、切り抜くのはその日の夜か次の日になるが、約3週間分の気象写真が資料としてそろっていった。

ときどき学校に持ってきて、気象写真からわかることなどが話題になった。始めのうちは、雲がどこにあるのか分からなかった子も、友だちと情報交換をするうちに雲の位置・形が、写真から分かるようになってきた。子どもたちは朝刊の気象写真をスクラップしていったので、その気象写真は前日夜の9時のものであった。学校では信濃毎日新聞の夕刊を購読しており、夕刊に載っている気象写真はその日の午後1時のものだったので、教師は子どもが学校で生活しているときの気象写真

(夕刊の写真)をスクラップしていった。天気と自分たちの生活が重なるようにと考えたからである。

気象写真のスクラップから、子どもたちが注目したのは白くうつる雲の様子であった。雲と天気に関係あることを今までの生活の中から知っている子どもたちであるので、雲に注目したのは当然である。雲の動きを追って気象写真を見ていくと、日によって雲の形や位置が違うことに気がついた。「雲がかかっている場合は、天気が悪いのではないか」「雲がなくなって天気がよくなる」など、気象写真を連続的に見る子どもが出てきた。

9月中旬から下旬にかけて台風が接近し、渦を巻くような台風の雲に関心が高まってきた。台風の動きから、雲は西から東に動いていく、天気は西日本から東日本に変化していくのではないかと、という考えを持つ子が出てきた。

③授業の実際

段階	学 習 活 動 ◇子 ども の 反 応	教 師 の 支 援
導 入	1 スクラップしてきた気象写真を見て、今まで気づいたことを出し合う。 ◇雲の形がいろいろある。 ◇雲の位置が日によってちがう。動いていくみたいだ。	・雲に関わることが出たら取り上げる。
	雲の様子(形、位置)に注目して天気を考えよう	
展 開	2 天気のいい日、天気の悪い日を気象写真から見つける。 ◇9月20日は、長野県の辺に白い雲があるから、天気は悪い。 ◇9月22日は、西の方に渦巻きの雲があるが、ここ(本州)は雲がない。天気はいい日。 ◇でも、もうすぐ渦巻き雲が近付いて悪くなりそう。 ◇9月24日は、台風が来ている。渦巻きの雲がそばにある。天気は悪い日。 3 気象写真あてゲームをする。 ・日付を隠した3まいの気象写真を提示し、雲の形や動きから何日のものか当てる。 台風が接近中の9月22日の写真……C 台風が最も接近した9月24日の写真…B 台風が過ぎ去った9月25日の写真……A ◇台風の雲は渦巻きだった。それが動いてきたんだな。 ◇先生のヒントをもとにその日の天気を思い出そう。 24日風が強かったなあ 空は雲だらけだ Bかな 25日は、晴れていて空に雲がなかったぞ Aかな 台風の雲が遠くにある CかAの写真だけど台風は西から近付いてきたから台風が西にあるCの写真は22日かな ◇22日と25日が分かりにくかった。 ◇全部当たったぞ。 ◇台風の雲は分かりやすいなあ。	・雲の様子に注目させる。 ・雲があると天気がよくないことをおさえる。 ・友だちの気づきをみんなで確かめ合えるように、常に気象写真のスクラップを見させる。 ・子どもがその日を思い出しやすいように夕刊(午後1時)の写真を利用する。 ・22日、24日、25日の学校生活をヒントとして話す。「24日は、台風接近で学校が半日授業だった」 ・正解を発表する。どうしてその日の写真か子どもに問い返す。

<p>終末</p>	<p>4 本時の感想を出し合う。 ◇雲の動きで天気分かるのはおもしろい。 ◇天気の写真（気象写真）を当てるのがおもしろかった。 天気西から変わってくるのがわかった。 ◇続けて写真を見るとよくわかる。 ◇雲の様子を見れば自分たちでも天気の予想ができそうだ。</p>	<p>・スクラップしてきたよさも取り上げる。</p>
-----------	--	----------------------------

④学習を振り返って

教科書に載っている気象写真を使っても、十分に天気の変化についての学習はできる。しかし、自分たちの生活と関わらせての学習にはなりにくい。子どもたちが実感をしながら学習していく上で、一人一人が天気欄のスクラップをしたことは有効であった。

スクラップをするために新聞を切り抜く時、ただ切り抜く活動から写真を見る活動、前日の写真と比べる活動への発展していった。授業を通してさらに、天気西から東が変わっていくことに気づくことができた。雲の変化を3週間以上という長期にわたって見ることは、スクラップが手元にあったからである。全員の手元にあったこともよかった。この学習のねらいは、天気の変化を探るところにあったが、NIEの視点から新聞の良さを感じ、興味関心を高めるねらいもあった。毎日、新聞の天気欄を見る活動により、今までテレビ欄・4コマ漫画にしか目が向かなかった子どもたちが、新聞の別の活用にもふれることができた。また、気象写真と一緒に記載されている「解説」の欄に目が向く子どもが増えてきた。「解説」は数行書かれているだけで子どもたちにも安易に読める。新聞のテレビ欄以外の活字にもふれる機会にもなった。

⑤その後の様子

子どもの日記や作文の中に、学校行事などの前に新聞の天気欄を見て、当日の天気を予想する子が何人かいることがわかった。テレビではあっという間に流れてしまう天気予報であるが、新聞を利用してじっくり自分で写真から予想をすることにトライする楽しさを感じている。

実践2：5年生国語・説明文『1秒が1年をこわす』—新聞の見出しのように段落に見出しを—

①学習のきっかけ

説明文の学習の中で、段落のつながり、構成を考えるために各段落の要旨をまとめていく活動を考えた。本学級の子どもたちは、短い文にまとめて書くことが苦手であり、このような学習には消極的であった。何か、興味や関心をもって取り組めないか と考えたとき、先に行なった新聞アンケートを思い出した。アンケートの結果で「見出しをみる」という子が、学級の3分の1いたのである。見出しは、そこに書かれていることを簡潔に表わしている。新聞の見出しについて検討し、それを生かして各段落に見出しをつける活動を通して、段落のつながりや構成を考えていこうと学習を始めた。

②学習の流れ

NIEコーナーにある新聞を調べて、見出しがどのようにしているか、一人一人調べてみた。政治経済の難しい記事は無理に選ばないで、自分で読めそうな記事をいくつか選び、記事の内容と見出しを見比べてみた。スポーツの記事や事件事故の記事を選ぶ子が多かった。

『松井逆転本塁打 キングどりへ』という見出しと記事を見比べたA男は、『キングどりへ』の意味がよく分からなかったようであるが、記事を読んでホームラン王(キング)獲得に迫るとのことだとわかった。そして、『逆転本塁打』という言葉が、キングにかかってその見出しができていたのではないかとA男なりに検討ができた。他の子たちも検討をして、記事の本文の中の大事な言葉が見出しについていること、言葉がダブらないようにしていることなどを発見していった。

いよいよ、説明文の各段落に見出しをつける活動に入った。その段落の大事な言葉をさがして、それを見出しにしようとする子が多かった。大事な言葉をさがす、重要になる文を見つけるという観点がはっきりして、いつもは消極的な子どもたちも意欲的に取り組む姿が見られた。うまく見出しがつけられないところは、調べた新聞にもどって考える姿もみられた。

③学習を振り返って

子どもたちが新聞を見る時、見出しに興味・関心があることが分かった。実際に見出しと新聞記事を見比べることで、さらに見出しの重要性を感じることができた。新聞社で働く人はどのように見出しをつけているのか、という疑問が子どもをつぶやきの中にあっただが、それは取り上げなかった。別の機会に取り上げるとおもしろい活動になると思う。

同じ段落でも、子どもによって多少見出しのつけ方が違う。どうしてその見出しにしたか、考えを出し合うことで、内容を理解する学習が深まっていくようである。見出しは言葉を選んで書かれており文を考える上で大事な観点になると思った。新聞を見る上で、これから見出しに注目する子が増えてきそうである。

(2)朝の会などの学級活動での取り組み

実践：4年生『ニュースの時間です』—新聞からのニュースが増える—

①活動のきっかけ

国語で自分の身の回りのことを題材にしてニュースの文を作り発表する学習をした。この学習を日常的な活動にして、子どもたちの表現力を伸ばしたいと考えた教師は、朝の会に当番制で発表する機会をつくることにした。

②活動の中の子どもの姿

子どもたちは初めのうち自分に関する出来事、テレビ番組などをニュースの題材にしてニュース文をつくり発表していた。しかし、ある日、一人の子が新聞記事を切り抜いてそれを題材にしてニュース文を作って発表したことをきっかけに、新聞に題材を求めることが多くなってきた。テレビ番組や自分に起ったことは、自分の印象に残ったことがニュースの中心になるが、新聞記事はじっくりと読み返すことができ、ニュースの文にしていく上でよい点があると気づいたようである。『ニュースの時間です』カードの右半分に新聞記事を貼り、その隣にニュース文を作っていくことは自然と新聞記事を読み返す活動になっていった。今まで、あまり新聞記事を読むことのなかった子どもが、自分の伝えるニュースとして文にするために新聞記事を読もう、読み返そうとしたのである。

T子は、自分の『ニュースの時間です』の発表に「コハクチョウ北へ第一陣 諏訪湖の40羽 寒さの緩み感じ」の新聞記事を題材にした。作ったニュースの文は、新聞記事の引用と共に、コハクチョウについて図鑑で調べたことが載せられていた。

<T子のニュース文>

私は、コハクチョウ、北に帰ることについて発表します。

諏訪湖で冬を越していた約150羽のコハクチョウのうち40羽が北のシベリアに向けて3日朝飛び立っていったそうです。

白鳥が飛び立った時の気温は、マイナス5度だったそうです。残りの白鳥も数日のうちに飛び立ちます。

コハクチョウは、がんかもの仲間で、その中でもオオハクチョウとよく似ています。オオハクチョウはとなりの新潟県のひょう湖で冬越しするそうです。

私は、実際には見ていませんが、諏訪湖に白鳥が150羽もいると知って驚きました。

(これでニュースを終わります)

T子は、生き物が好きな子であるが、白鳥についてはこの新聞記事が知るきっかけになったようである。新聞から興味を持ち、図鑑で調べるまでになった。このように新聞記事への関わりが『ニュースの時間です』の活動の中で見られるようになってきたのである。

4. 実践の感想と今後の課題

○新聞への興味・関心を高め、新聞の良さを子どもたちが感じられるようにいくつかの実践をしてきた。新聞の良さとして、見返せること、子どもの手元にあること、場合によっては学級のみんなで見れることなどを取り上げて取り組んでみた。理科の『天気欄』を活用した実践は、新聞を日常生活に取り入れる一つのきっかけになると感じた。

○新聞には多くの細かな文字が並んでいる。子どもたちのイメージに「新聞は難しい、

読みにくい」とイメージがあるようだが、見出しに注目したり、ニュース文を作る題材に取り上げたりすることで、近い存在になっていくことができる。新聞の中のどの記事、どの部分に注目させるかが大事な視点になると思う。

○本年度末の3月に再び新聞アンケートをしてみた。次のような結果になった。

＜新聞についてのアンケート 2000年3月 5年生 33名＞

・新聞を読みますか？

毎日読む…22名 週に3日ぐらい読む…10名

週に1・2日読む…1名 ぜんぜん読まない…0名

・どんなところを読みますか？

テレビ欄…27名 4コマ漫画…21名 見出し…18名 スポーツ欄…9名

事件・事故の記事…8名 天気予報…12名 おくやみ欄…2名

地域のニュース…2名 1面記事…1名 映画のらん…1名

N I Eに取り組む前と比べて、「見出し」「天気予報」「事件・事故」の部分を読む（目を通す）子が増えている。学校教育の中で教師の願いや意図があって取り上げた取り組みであるが、子どもたちに伝わる部分が多く、影響していることがわかる。アンケートと一緒に聞いた子どもの感想の中に「勉強してから新聞を見るのが多くなった」「テレビ欄以外も見ようと思った」「テレビ欄より天気欄を先に見るようになった」「気になる記事を読むようになった」「新聞を使った勉強は思ったより楽しかった」など、前向きな感想が多くあった。これは、この1年の成果として受け止めたい。

○教師が（実践者が）今までより新聞を読むようになった。1日に何社もの新聞を読めた。

●今後の課題として—

- ・新聞には情報が多く詰まっている。その多くの情報をどう子どもに選ばせていくか。
- ・限られた時間の中で、どのように時間を確保し、見通しをもって取り組んでいくか。
- ・学校内での新聞に関する環境作りをどう進めるか。